



# 館長だより

山形県産業科学館

令和6年5月19日(日)

発行 館長 加藤 智一

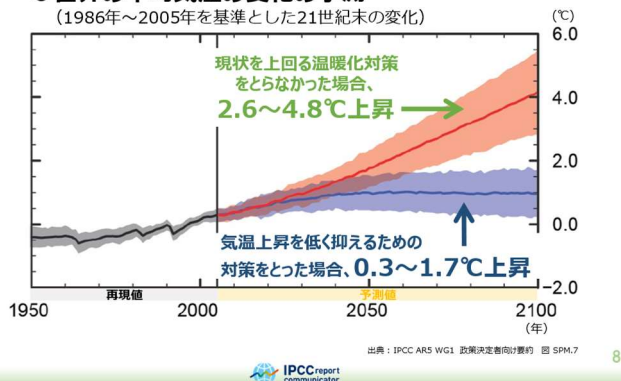
## 地球温暖化による山形への影響

問題です。「過去132年の間に、世界の年平均気温は何℃上昇しているでしょう。①0.85℃ ②3.2℃ ③4.8℃」 ※過去132年とは、1880年から2012年です。 答えは①0.85℃です。

②の3.2℃とは、東京における気温の上昇温度でした。東京など大きな都市の気温上昇は地球温暖化の影響に加え、都市部のアスファルト、ビルの排熱などによるヒートアイランド現象が無視できません。では③の4.8℃とは。現状を上回る温暖化対策をとらなかった場合の21世紀末の世界の気温の上昇温度の最大値でした。

## 21世紀末に最大で4.8℃上昇

●世界の平均気温の変化の予測 (1986年～2005年を基準とした21世紀末の変化)



温暖化についての研究は、多くの方々によってなされていて、現状を上回る温暖化対策をとらなかった場合でも研究者によって様々な意見があり、2.6℃～4.8℃と幅があります。同様に、気温上昇を低く抑えるための対策をとった場合でも、0.3℃～1.7℃と幅があります。両者の間には、ずいぶんと大きな開きがあるなど思った方もいるでしょう。しかし両者とも、ある共通した意見では一致しているのです。何だと思えます。そうです、何をしても「温暖化は止まらない」ということです。

ちなみに山形市における過去120年あたりの年平均気温は1.2℃、100年あたり1.3℃上昇しています。内訳は、冬1.5℃、春1.4℃、秋1.0℃、夏0.9℃です。

次に、植物への影響ですが、カエデは秋に涼しくなることで紅葉しますが、気象庁は、大部分の葉の色が紅色に変わった最初の日が、10年あたり約3日

遅くなっていると報告しています。これを50年で考えると、約15日。60代私の場合、子どものころより半月ぐらいカエデの紅葉日が遅くなっているということになります。また、桜については、1953年以降、10年あたり0.9日開花日が早くなっているとのこと。

山形県において気温の上昇による影響として考えられるのは、米や果樹の品質低下、熱中症患者の増加などが報告されています。また、近年の大雨の増加による自然災害、特に短時間で降る大雨が増えており、最上川水系の氾濫による被害がすでに発生しています。生態系への影響も懸念されており、ニホンジカの生息域拡大や森林被害の拡大が報告されています。そこで、山形県でも、地域特性に合わせた「適応」の取組みを進めており、果樹の品種改良や本来西日本で栽培が盛んな柑橘類の研究など、農業や水環境、健康、自然災害対策など幅広い分野で対応しています。

温室効果ガスを減らす緩和策だけでなく、温暖化による悪影響に備える適応策を車の両輪のように、バランスを取りながら進めていくことが、求められているのです。